

論説

2023-7-1

「第9波」を警戒せねば

コロナ感染拡大

新型コロナウイルスの感染者が再び増加している。専門家は「第9波が始まった可能性がある」として、夏に向けて感染がさらに拡大する懸念を指摘した。日増しに拡大している中でもウイルスが持続しておさまらない。警戒を緩めず、感染予防を心がけたい。

厚生労働省によると、全国約五千の定点医療機関から六月十九日、二十五日に報告された一医療機関当たりの感染者は平均六・二八、前週比一・〇九倍と微増が続く。

特に沖縄県では感染が急速に拡大している。入院患者や重症者が増加傾向にあり、医療体制が逼迫する懸念が指摘されている。

感染症法上の位置付けは五月八日から、梅原などの二週一相当から季節性インフルエンザと同じ「五類」に移した。第9波に突入すれば、感染対策の緩和以降、初めて経緯する流行となる。

五類移行後、入退館の調整は自治体も保健所でなく医療機関に任されているが、医療を必要とする人が迅速に治療を受けられる態勢を維持することが不可欠だ。感染拡大の状況を注視し、必要なら保健所の支援も検討すべきだ。

感染対策が緩和されたことで、夏にかけて人の往来も増えた。

自然感染やワクチン接種の効果が低下してきた時期とも重なり、風邪の症状や肺炎を引き起こすウイルスなど別の感染症もまた感染を中心に拡大している。

感染症の拡大を抑えるためには、対策を再度徹底しておく必要がある。マスクを外す人も徐々に増えていくが、医療機関や介護施設などでは適用するまでマスクや手洗いを徹底することを促したい。

ワクチン接種も感染拡大の抑制に一定の効果がある。接種が滞ったものの接種率は約四割にとどまる。政府は高齢者に対する接種の呼びかけを強化している。

厚生労働省は五類への移行前、感染者数を毎日発表して公表していたが、移行後は隔られた定例発表機関から発表される情報を通じて一回公表する予定が追加された。

風評防止につながる感染拡大をなくすためにも、引き続き、二週一相当のペースを定めた感染も増える。五月以降では感染が拡大しているが、五類移行後は拡大が止まらなくなった。五類移行後は拡大が止まらなくなった。

感染対策は、五類移行後も引き続き厳格に実施し、出席を促す必要がある。政府は専門家の協力も確保し、感染対策の効果を高める必要がある。